

佐世保市立大野小学校沿革史

明治時代

明治四年

明治政府に文部省ができる。
がくせい はつぷ

明治五年八月

学制が発布される。

明治七年七月一日
児童数 三二八

大野村原分の西蓮寺(坂の下)の一室で授業
さいれんじ
こうめい さだ
じゆぎよう

明治八年二月

大野小学校と校名を定める。
はじ
やぶさ じんじや とち
こうめい さだ
た
矢保左神社の土地の三十坪を得て、校舎を建
こうしや

第五学区第四中学区下等大野小学校
だい だいがく だいにんちゆうがく かくかとう
てゝ。 第五学区第四中学区下等大野小学校
あた

に校名を改める。

じよし しゆうろうしやうれい むらお すみお

女子の就労奨励のため、村尾純男宅の一室を

借り、裁縫科を設立する。

がくせい はい きやういくれい こうふ

明治十二年度

学制を廃して教育令が公布される。

きたまつらぐんちゆうとう

明治十三年度

長崎県北松浦郡中等大野小学校に校名を改め

る。

なかざとむらよしおか てんまんじんじや

明治十四年度

中里村吉岡の天満神社の土地を入手し、

うつ こうしや

校舎を移して、四十五坪の校舎とする。

明治十七年度 児童数 二四八人

明治十八年度 児童数 二九八人

明治十九年

児童数 三三二人

長崎県北松浦郡尋常大野小学校に校名を改め

る。

明治二十年度 児童数 三三五人

明治二十一年度 児童数 一四六八人

明治二十二年二月

大日本帝国憲法が発布される。
だいにっぽんていこくけんぽう はつぷ

明治二十二年度

児童数 一四〇人

大日本帝国海軍佐世保鎮守府が設置される。
ちんじゆふ せつち

明治二十三年度

児童数 一四五八人

小学令が公布される。教育勅語が発布される。
しやうがくれい こうふ きやういくちよご はつぷ

明治二十四年度 児童数 二二九人

明治二十五年度

児童数 一一八八人

第一室と第二室を普通教室とし、第三室は

しゆうがく ふうつ さいほう

女子就学させるために使用し、第四室を裁縫

室とする。

明治二十六年度 児童数 二二七人

明治二十七年

児童数 一五一八人

一教室を増築する。高等科を併設し、長崎県

じんじやうこうとう

北松浦郡大野尋常高等小学校に校名を改める。

じどう

高等科児童二十二二人

明治二十八年度 一七一人

明治二十九年 度 一八六人
明治三十年 度 一九七人

明治三十一年 度 校舍が新しく建てられる。(八教室)
児童数 一八四人

明治三十二年 度 児童数 二〇九人

明治三十三年 度 児童数 二四四人

明治三十四年 度 児童数 二二四人

明治三十五年 度 佐世保村から佐世保市になる。
児童数 二二四人

明治三十六年 度 児童数 二二三一人

明治三十七年 度 日露戦争がおこる。
児童数 二四九人

明治三十八年 度 児童数 二四一人

明治三十九年 度 児童数が約四百名に増えたので、西の地を
児童数 二三三人

藤原若松氏からの寄贈および買い取り、村民
で開拓し六百二十二坪の運動場とする。

明治四十年 度 児童数 二四〇人

明治四十一年 度 児童数 三二七人

明治四十二年 度 児童数 三四一人

明治四十三年 度 児童数 三六二人

明治四十四年 度 児童数 三六五人

明治四十五年 度 明治天皇崩御
児童数 三六〇人

大正時代

大正二年 度 児童数 三三二人

大正三年 度 児童数 三五四人

東側に校地を広げ、三教室を増築。
十教室になる。

大正四年 度 児童数 三六九人

大正五年 度 児童数 三八三人

大正六年 度 児童数 四一五年

大正七年 度 児童数 四七四人

大正八年 度 児童数 五三四人

大正九年 度 児童数 五二七人

大正十年 度 児童数 五五二人

大正十一年 度 児童数 五七四人

大正十二年 度 児童数 五八六人

大正十三年 度 児童数 五四二人

大正十四年 度 児童数 五五二人

大正十五年 度 児童数 五六四人

村の炭坑の繁栄に伴い、村役場の一室を借り、裁縫室に充てる。
運動場を広げ、四教室を増築。十六教室になる。

創立五十周年記念式典

大正天皇崩御